

# その他脊髄・中枢神経疾患 症例報告

## ■その他脊髄疾患 (P.39-43)

- 中枢神経系疾患
- 変形性脊椎症
- 変性性脊髄症(DM)
- 小脳梗塞
- 脊髄梗塞

# その他神経疾患 症例I

年齢	体重	犬種	発症時のグレード	細胞投与前のグレード	損傷部位	発症から手術(日)	発症から細胞投与(日)	随意運動	起立	歩行	排尿	深部痛覚	回復ポイント	反応日数(1回目の細胞投与~)	圧迫の程度	画像診断	所見	併用治療	投与細胞	凍結	平均投与細胞数(×10 <sup>6</sup> )	体重あたりの細胞投与数
4	?	フレンチブルドッグ	脊髄軟化症	?	T13-L4	なし	13	○	△	△	○	○	4	7	?	CT MRI	CTで脊髄の膨張と浮腫がみられた。脊髄軟化症疑い。深部痛覚・排尿(-)。細胞治療のみで固有知覚の改善と痛みの改善が見られた。	ステロイド ケージレスト	自家 他家		3.5	記載なし
10	8.4	ミニチュアダックスフンド	脊髄梗塞	脊髄梗塞	L4-5	なし	35	○	○	○	-	-	3	20	脊髄梗塞	CT	細胞投与前にステロイド投与などで深部痛覚が観察でき、足に力が入るようになった。細胞投与後、拘縮していた左足が動きだし、踏み直りが可能になった。現在は正常に回復した。	ステロイド トリプレクセン エラスポール	自家		7	0.8
8	4.1	チワワ	記載なし	小脳疾患	脳	なし	8	-	○	○	△	-	2.5	50	なし	X線	右前脚のCP0。膝蓋腱反射亢進し、ふらつきながら歩行が可能となる。治療後ふらつき消失し、前肢CPと四肢反射正常になる。	ステロイド(PO)	抽出 (シート)		6.5	1.6
?	?	日本猫	椎体骨折脱臼	?	?	なし	2	○	○	△	-	-	2.5	?	?	?	歩行はふらつきもあるが回復した。	ケージレスト ステロイド ケタミン	他家	○	1.6	記載なし
5	?	ミニチュアシュナウザー	脊髄梗塞	?	?	なし	24	△	○	△	-	-	2	7	×	MRI	投与後に短時間で前肢を自力で動かし始める傾向があった。一部不全麻痺は残る。	ステロイド (SC・PO)	他家	○	9.3	記載なし
2	30	パーニーズマウンテン ドッグ	椎体骨折	?	T12-13両	なし	45	○	×	×	×	○	2	×	ハンセン無	CT MRI	椎体骨折による脊髄損傷、経過観察中だが細胞投与後来院なく経過不明。	ケージレスト リハビリ	自家		14.5	0.5
2	?	日本猫	椎体骨折	?	T10-11	なし	60	○	×	×	×	○	2	×	?	CT	事故による椎体骨折・脱臼。後肢自分で動かすが、起立は不可能である。後肢を自力で動かすなど一定の効果が見られた。	ケージレスト	自家	○	3.2	記載なし
1	6.1	シーズー	椎体骨折	?	L5-7両	なし	5	-	○	○	-	-	2	?	椎体骨折	CT	CPは当初から正常。治療後跛行から協調歩行できるようになった。	ケージレスト ステロイド ビタミン(SC) メロキシカム	他家		3.2	0.5
9	12.2	柴	椎体骨折	?	T1-2	70	129	○	△	-	-	-	1.5	21		CT MRI	細胞投与前に少しずつ感覚が戻るようになった。細胞投与後、最終的にふらつきながら協調歩行ができるようになる。	ケージレスト ステロイド (PO・IV) リハビリ 椎体固定	他家		6	0.5

# その他神経疾患 症例2

年齢	体重	犬種	発症時のグレード	細胞投与前のグレード	損傷部位	発症から手術(日)	発症から細胞投与(日)	随意運動	起立	歩行	排尿	深部痛覚	回復ポイント	反応日数(1回目の細胞投与~)	圧迫の程度	画像診断	所見	併用治療	投与細胞	凍結	平均投与細胞数(×10 <sup>6</sup> )	体重あたりの細胞投与数
12	34	ラブラドルレトリバー	変形性脊椎症	?	L2-3	なし	123	—	○	△	—	—	1.5	11	不明	X線	細胞投与当時CP0。投与後11日後にはCP2に回復した。起立はふらつきながらも可能になり、よく歩くようになり、元気も出てきたとのこと。	レーザー(週1) リマダイル ビタミン ミオナール	自家		17.5	0.5
12	12.8	ウエルシュコーギーカーディガン	DM	DM	?	なし	2年	○	×	×	?	?	1	41	遺伝子検査陽性	遺伝子検査(+)	細胞投与1か月後より、随意運動は回復し、右後肢の動きが出るようになった。半年たっても固有位置感覚は0で変わらない。	なし	自家		21.7	1.7
9	?	ウエルシュコーギーカーディガン	DM疑い	?	?	なし	131	—	△	△	—	—	1	45	不明	遺伝子検査(-)	立つことはできるが歩きたがらない。細胞投与後40日後には走って散歩に行くまでに回復したが、1か月後に悪化し、再び歩けなくなった。	リハビリ ステロイド(PO) ビタミン	自家		?	記載なし
4	1.7	ヨークシャーテリア	頸椎不安定症	?	C1-2	2	64	○	×	×	—	—	1	×	不安定症	CT	発症時は頸部以外は全く動かない状態。術後やや回復傾向が見られた。現在は頸部を持ち上げることができ、四肢も動かせるが体重が支えられない。随意運動は回復。オーナーは首がしっかりしたと表現している。	ステロイド リハビリ 絶対安静	自家		不明	?
10	4.5	コリー	脊髄空洞症水頭症	?	?	なし	不明	—	—	○	—	—	1	21	脊髄空洞症水頭症	触診	椎間板ヘルニア・積水空洞症・水頭症・気管虚脱発症。細胞投与により歩行距離が延びるなどの変化が見られた。元気に走り回っても、転倒することが少なくなった。片足を上げて排泄できるようになる。	なし	自家		10.5	記載なし
7	5.5	犬MIX	脊髄梗塞	?	C2-4右	なし	21	—	○	○	○	—	3	投与前	脊髄梗塞	MRI	発症時CP0。細胞投与時に回復し、起立が可能になった。その後排尿コントロールも改善し、協調歩行まで改善した。	ケージレスト ステロイド(1日IV)	自家		27.7	5.0
12	13.8	ウエルシュコーギーカーディガン	変形性脊椎症	?	?	なし	10ヵ月	?	△	△	—	—	1	13	不明	X線	1回目投与14日後、下半身引きずるが大腿部が動くようになった。(下半身不可→補助付きで歩行可能)	なし	自家		13.5	1.0
4	?	コリー	壊死性脳炎	?	?	なし	120	—	△	△	—	—	1	×	×	MRI	投与前は左旋回し、自立歩行が困難であった。投与後より自立歩行と意識的活動ができるようになった。	ステロイド	他家	○	2	記載なし
5	3.7	コリー	脊髄梗塞	?	?	なし	13	—	△	△	—	—	1	14	脊髄梗塞	なし	投与2週間後、起立がやや回復。補助付きからふらつきながら歩くように。投与後後肢が強く動き、起立時間が延長するなどの反応が見られた。	リハビリ	自家		4	記載なし

# その他神経疾患 症例3

年齢	体重	犬種	発症時のグレード	細胞投与前のグレード	損傷部位	発症から手術(日)	発症から細胞投与(日)	随意運動	起立	歩行	排尿	深部痛覚	回復ポイント	反応日数(1回目の細胞投与~)	圧迫の程度	画像診断	所見	併用治療	投与細胞	凍結	平均投与細胞数(×10 <sup>6</sup> )	体重あたりの細胞投与数
1	3.5	猫	仙髄損傷	?	S	なし	54	△	—	—	○	○	2.5	2	不明	X線	仙髄損傷。歩行は正常だが深部痛覚なし。投与当日には排尿はできないが、尿意が回復した。投与2日後から自力で排尿が可能になった。動かなかった尾が振れるようになり、毛並みもよくなった。	リハビリ	自家		?	記載なし
8	5.1	ミニチュアダックスフンド	椎体骨折	?	?	?	?	?	△	×	?	○	1.5	7	?	?	投与1週間後に起立時間の延長、2週間後に深部痛覚が回復した。歩行困難だが起立姿勢が短時間ではあるができるようになる。	リハビリ 椎体固定	自家		20.5	4.0
10	5	猫	変形性脊椎症	?	C-L	なし	200	—	—	×	×	—	0	×	不明	X線造影	細胞投与前より、ふらつきながら起立可能となる。細胞投与後当初より腰の位置が高くなり、圧迫排尿しやすくなったが、1カ月後に状態が元に戻ってしまった。	なし	他家	○	5	1.0
13	23.8	ラブラドルレトリバー	変形性脊椎症	?	?	なし	9ヵ月	—	△	×	×	—	0.5	7	不明	X線	歩行には至らなかったが、細胞投与1週間後、後肢・前肢の動きが上がり、表情などに変化があった。	リハビリ	自家		9	0.4
11	40.5	グレートデン	変形性脊椎症	?	?	なし	60	—	△	—	?	—	0.5	14	変形性脊椎症	X線	最初は起立不能。細胞投与14日後、時々補助付きで起立可能となり、左後肢にやや力が入り、起立の面では改善が見られた。幹細胞治療による治療効果が認められた。	なし	自家		7	記載なし
12	19.1	柴	変形性脊椎症	?	?	なし	180	—	—	×	—	—	0.5	41	変形性脊椎症	なし	ふらつきの改善、歩行距離が長くなった。本症例では効果が認められた。3ヵ月後再発し起立困難になった。	リハビリ(毎日) ピロキシブ	自家		11.4	記載なし
12	18	コーギー	変形性脊椎症	?	L2-3	なし	154	×	△	×	×	—	0.5	×	?	X線	オーナーは投与後に補助付きで起立姿勢を保て、元気になったという印象を受けている様子。診察的には変化は見られなかった。	リハビリ(毎日)	自家		11.4	0.6
12	12	コーギー	DM疑い	3	T12-13 L2-4	なし	?	—	×	×	—	—	0	×	非常に軽度	?	軽度の椎間板ヘルニアとDM(SOD1陽性)。細胞投与も変化はなし。	ステロイド リハビリ レーザー	自家		?	記載なし
12	20	ウエルツシュコーギー カーディガン	DM疑い	?	?	なし	10ヵ月	—	×	×	—	—	0	×	なし	遺伝子検査(-)	左足が力が入らず引きずっていた。細胞投与後もふらつきの変化は見られなかった。	なし	自家		8.6	0.4

# その他神経疾患 症例4

年齢	体重	犬種	発症時のグレード	細胞投与前のグレード	損傷部位	発症から手術(日)	発症から細胞投与(日)	随意運動	起立	歩行	排尿	深部痛覚	回復ポイント	反応日数(1回目の細胞投与~)	圧迫の程度	画像診断	所見	併用治療	投与細胞	凍結	平均投与細胞数(×10 <sup>6</sup> )	体重あたりの細胞投与数
11	13.5	ウエルシュコーギーカーディガン	DM 疑い	DM 疑い	後肢両側	なし	8ヵ月	—	×	×	—	—	0	×	なし	遺伝子検査 (-)	変性性脊髄症疑い。細胞投与後も改善なく、起立はふらつき、歩行はナックリング状態。悪化はなし。	リハビリ(週1)	自家		13	1.0
12	?	ミニチュアダックスフンド	排尿		L1-3	20	5年	—	—	×	×	?	0	×	不明	不明	発症時は脊髄歩行で排尿コントロール不可。(CP0)投与後歩行の様子は変化はないが、元気も出てきて痛みも抑えられた様子。	NSAIDs リハビリ(毎日) リマダイル ビタミン	自家		29	記載なし
10	4	Gピレネー	馬尾症候群	?	T13-L2	なし	199	—	×	×	—	—	0	×	不明	X線	穏やかに発症した。細胞投与後も反応が見られず、今後は対症療法を行う予定。	ステロイド(PO) NSAIDs	自家		10.5	2.6
10	14.9	犬MIX	変形性脊椎症	?	DM疑い	なし	109	—	×	×	—	—	0	×	変形性脊椎症	遺伝子検査 (-)	幹細胞投与16日後、左後肢の動きが活発になった気がするとのオーナーからの意見。治療効果としては認められたと判断できた。	なし	自家		4.5	記載なし
4ヵ月	?	猫	末梢	末梢	S	なし	?	×	×	×	—	×	0	×	不明	X線	末梢神経による後肢の麻痺と拘縮状態があった。細胞投与後も変化は見られない。	リハビリ	他家		5.8	記載なし

P.16に用語補足あり。